

2014年4月21日 <文科省研究費部会>

若手研究者支援のための 研究費

村田 武士

千葉大・理; JST さきがけ



本日のご依頼内容

海外でのポスドク研究、現在の所属大学等の
経験を踏まえ

- ・ **若手研究者支援のため**の科研費のあり方
- ・ **長期的な研究キャリア形成のため**の科研費のあり方
- ・ 大学を取り巻く状況を踏まえた科研費の役割

村田の16年間を振り返りながら**研究費**に関して感じたことを述べさせていただきます

H9/4-H12/3: 東京理科大学博士課程 (学振DC1)

H12/4-H12/8: 学振PDとして理科大ポスドク

H12/9-H14/5: 学振PDとして英国MRCのポスドク

H14/6-H15/3: MRC PFとしてMRCのポスドク

H15/4-H17/3: 学振(海外)としてMRCのポスドク

H17/4-H18/7: 理研基礎特研として理研ポスドク

H18/8-H19/6: JST ERATOのグループリーダー

H19/7-H21/3: 京大・医の助教兼グループリーダー

H21/4-H25/3: 千葉大・理のテニュアトラック准教授

H25/4-現在: 千葉大・理の准教授

H9/4-H12/3: 東京理科大学博士課程

特別研究員

Research Fellowship for Young Scientists

DC1が当たる！

240万円／年の生活費！

90万円／年の奨励費！

おかげで結婚できた。

制度概要

制度の概要 (PD・DC2・DC1)

将来の学術研究を担う優れた若手研究者を養成・確保するため、本会は、学術審議会答申「策について」（昭和59年2月6日）に基づき、昭和60年度に特別研究員制度を創設しました。

「特別研究員」制度は優れた若手研究者に、その研究生活の初期において、自由な発想の学術研究の将来を担う創造性に富んだ者等として、入学時博士課程修了者及び入学時博士課程修了者等で、優れた研究能力を有し、

若手研究者支援の第一歩

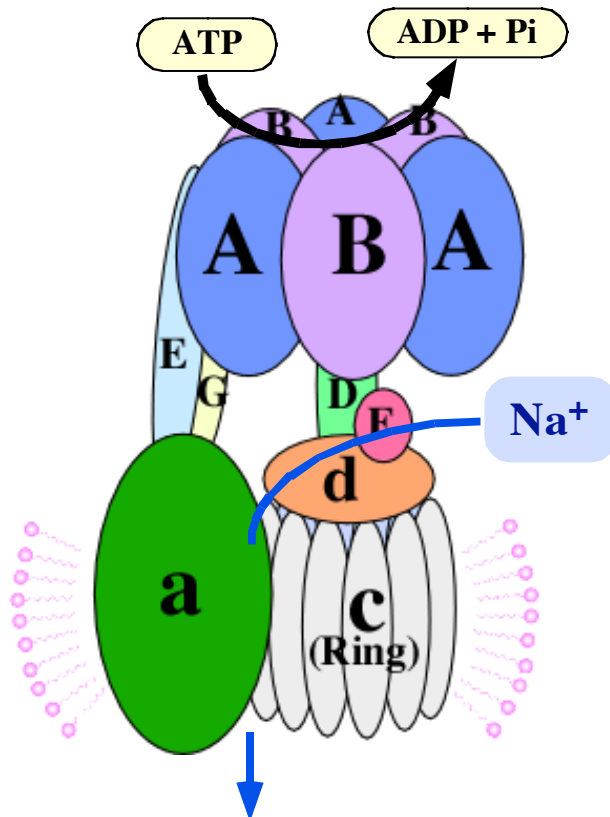
博士過程への進学率を増やすためにはこの支援拡充が重要

優秀な学生に博士過程へ進学してもらうために

研究者という職業のイメージアップも重要(スター研究者)

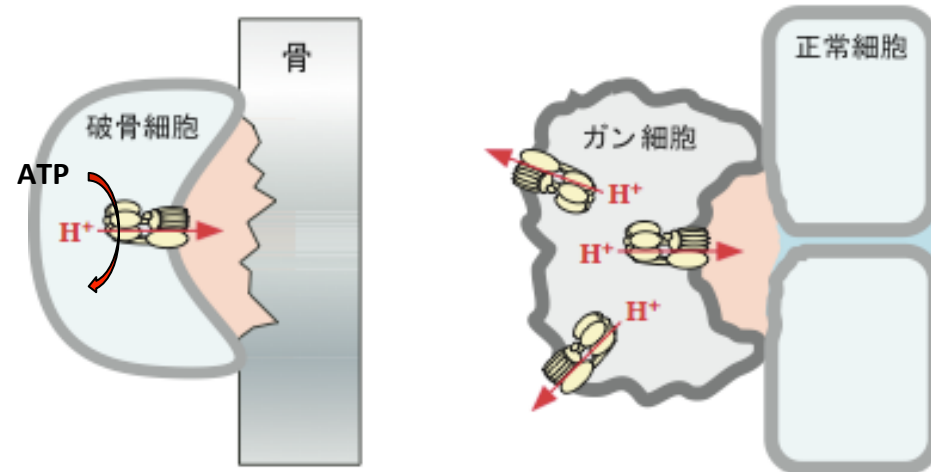
村田の博士論文 (V型ATPaseの構造と機能)

バクテリアV型ATPase



T. Murata *et al.* (1996) *J.B.C.* **271**, 10042-7
T. Murata *et al.* (1996) *J.B.C.* **271**, 23661-6
T. Murata *et al.* (1997) *J.B.C.* **272**, 24885-90
T. Murata *et al.* (1999) *J.B.* **125**, 414-21
T. Murata *et al.* (2000) *J.B.C.* **275**, 13415-9

どんな機械なのかメカニズムを知りたい！！



骨粗鬆症、大理石病

ガン、ガン転移

- ・エイズウイルス増殖
- ・尿細管性アシドーシス
- ・パピローマウイルス感染

重要な創薬ターゲット

H12/4-H12/8: 学振PDとして理科大ポスドク

特別研究員

Research Fellowship for Young Scientists

学振PDも当たる！

437万円／年の生活費！

120万円／年の奨励費！

制度概

当時は同じ研究室に残ることができた！

制度の概要 (PD・DC2・DC1)

将来の学術研究を担う優れた若手研究者を養成... 本会は、学術審議会答申「学術研究体制の改善のための基本的施策について」（昭和59年2月6日）に基づき、昭和60年度に特別研究員制度を創設しました。

学振PDでは1.5年間を海外で研究することができる特典がある！！

研究に専念する機会を与えることにより、我が国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保に資することを目的とする

留学先の選定とビザ取得までの期間を同研究室にて過ごした。

学術審議会建議「特別研究員制度の改善充実について－若手研究者の養成・確保のために－（平成2年7月31日）」の趣旨に沿っ

海外進出及び長期的な研究キャリア形成のためにも
学振PDは同研究室で受入可能(条件付き?)に戻すべきと思う。